**中門**

この巨大な朱色の門は、訪問者や参詣者を壇上伽藍に迎え入れています。いつ建てられたかは定かではありませんが、空海という僧（諡号 弘法大師、774-835）が高野山を開いた819 年だと考えられています。

現在の中門は、高野山開山 1200 年を記念して 2015 年に再建された新しいものです。前の中門は 1843 年に焼失しました。

中門は、四方を守る四天王を表す四体の木像によって守られています。

中門の外側にある江戸時代（1603-1868）につくられた二体の像は、1843 年の火事を免れました。左の像は持国天という力強い東方の守護者で、悪と戦うために金の剣を持ち火の輪に囲まれています。右の像は北方の守護者で聖なる場所の番人でもある多聞天で、金の宝棟を捧げ持っています。

中門の内側には、2015 年に建立された二体の彫像です（新しいため木が他より淡い色をしています）。巻物と筆を持っている像は西方の守護者である広目天は、信者を悟りの道に勧めます。もう一体は、戟を振るう増長天という南方の守護者で、精神的な成長を促します。この二体の守護者の胸には象徴的な昆虫が彫られています。セミのよく通る鳴き声は、聞くものに明瞭さと理解をもたらすと言われており、直進方向にしか飛ぶことができないとされるトンボは、自分の目指すものに向かって道を外すことなく進むことを象徴しています。